

憲法改正

戦後GHQが作った日本国憲法が、これだけ時代が変わった現在でも、一字一句変わっていない事自体が異常だと感じる。改正ありきではなく、今一度日本国民が自ら憲法を見直し、今の時代にも合うものは残し、合わないものは変えるべきである。特に日本を取り巻く安全保障情勢は緊迫しており、自国は自分で守る、という原点に立ち返って自衛隊の明記を含む9条を考える必要がある。現行憲法を平和憲法と呼ぶ人もいるが、憲法自体が平和を保証してくれるものではない。またその他にも自民党が重点項目としている緊急事態条項、合区解消、教育の充実や日本の伝統、文化、歴史的背景を盛り込んだ我が国独自の前文策定など見直す点は多々ある。改憲タブーの時代を超えて、今、ようやく改憲の機運が高まってきた。

今一度、国民全体で日本国憲法について真剣に考えるべきだと思う。



●中谷元先生と憲法改正についての番組出演



国会運営

当選後初めての通常国会を終え、国会運営に関して思うところが多々あった。特に今国会でも多発した野党による審議拒否、これは極めて稚拙なパフォーマンスだと思う。確かに森友、加計、防衛省の日報、官僚のセクハラ問題など、行政の信頼を損ねる事態が次々と起こり、その責任は政府にもあるだろう。これらの各問題に対してはしっかりと説明責任を果たすとともに政府が率先して真相解明に努めるべきである。しかし、これを理由に野党が国会の審議を拒否し、国民生活に直接影響する大切な法案を通せなくなるという事は、国益という観点からみても非常に大きなマイナスである。与党だろうと野党だろうと、我々は国民の大切な主権を預かって国会にいる事を忘れてはならないし、中身のない足の引っ張り合いではなく、国益に資する真つ当な政策論争をしなくてはならないと思う。

初めての通常国会を終えて

やすたかか言いたいこと。

社会保障と財政再建

日本が抱える大きなジレンマ。止まらない少子高齢化でこれまでの社会保障の仕組みでは今後立ち行かない事は明白であり、年々増え続ける介護、医療、年金の負担を誰がするの？既に現役世帯の負担は限界状態にあり、国債を発行して財源を確保する事は簡単であるものの、これは言わば将来世代のクレジットカードを勝手に使っているようなもので、財政赤字が増えるだけの極めて無責任な行動である。いずれにしても養う人が減り、養われる人が増える流れは不可避であり、従来のyoung supporting oldではなく、all supporting all (皆で皆を支え合う)に変えていく必要がある。これには当然痛みを伴い、現役世代の負担は増えるかもしれない。しかし『生まれてくる子にどんな日本を残すか』を考え、歳出削減と同時にあらゆる手段での歳入増加(景気回復等)に努めていくことが今を生きる我々の責任であると思う。



生まれてくる子にどんな日本を残すか』を考え、歳出削減と同時にあらゆる手段での歳入増加(景気回復等)に努めていくことが今を生きる我々の責任であると思う。



若者の政治参加

若者=政治無関心、という先入観は捨てないといけない。私も今国会で多くの高校生、大学生との意見交換の場を設けてきたが、彼らは皆真剣にこれからの日本を考え、政治に向き合おうとしている。若者はどうせ投票に行かないから、といって若い世代を置き去りにしてきたのは政治家側であり、私はそれを変えていきたい。若者に対して「投票に行け」ではなく、まずは政治を身近に感じてもらう。その為はこちら側から歩み寄る姿勢が何よりも大切だと思う。私自身、「若者政策推進議員連盟」の幹事として、被選挙権の引き下げや供託金の問題等含め、今後も若者の声をしっかりと聞いていきたい。



活動報告



●同期の先生のパーティーで司会



●様々な会で講師を務める



●コンクリート製造現場を視察



●餅つき大会に参加



●青年局街頭演説



●農産物に対する地元の要望を発言



●インド大使と会議



●グラウンドゴルフ大会で皆さんと



●伊勢崎銘仙ファッションショー



●二階幹事長と



●地元小学生の国会見学



●総社神社で節分豆まき



●各自治体の要望を聞いて回る

Media 様々なメディアに取り上げていただきました!



●J-WAVE「PICK-ONE」5月21日放送



●フジテレビ「プライムニュース」5月27日放送



●NHK WEB政治マガジン「サラめし」掲載



●「タ刊フジ」6月23日掲載

祖父康弘が100歳を迎えました

祖父、中曽根康弘が今年の5月27日で100歳を迎えました。私は祖父が総理大臣に就任した1982年に生まれ、幼い頃から政治家としての祖父の背中を見てきました。昨年、初当選を祖父の事務所へ報告に行った際には、厳粛な表情で開口一番、「歴史を勉強しなさい。政治家が先見性を持って国の舵取りをするには過去を知らなければいけない。」とアドバイスがありました。こうして100歳を元気に迎えられるのもここまでご支援頂いた皆様のおかげであり、家族として心から感謝申し上げます。

